主論文の要旨

Clinical significance of keratinocyte growth factor and K-sam gene expression in gastric cancer

（胃癌における KGF(keratinocyte growth factor)/K-sam 発現の臨床腫瘍学的意義）

東京女子医科大学第二外科学教室

（主任:亀岡信悟教授）

谷　英己

MOLECULAR MEDICINE REPORTS 7(5): 1381-1386, May 2013 に掲載

【要旨】

スキルス胃癌など diffuse growth type の癌腫は早期診断が困難で発見時に進行癌であり治療成績が極めて不良である。Keratinocyte Growth Factor: KGF が胃癌の増殖・浸潤にどのように関与しているかを、血清学的および免疫組織学的に検討した。対象は1999年から2003年までに当教室にて胃癌切除術症例 86 例。術前に採取された血清にて KGF 値を測定した。KGF 抗体と K-sam 抗体を使用し、酵素抗体法で免疫組織学的染色を施行した。血清 KGF 発現と臨床病理学的諸因子を検討したところ、肉眼分類 0,1,2,3 型 10.747 ± 3.571pg/ml に比し 4,5 型は 14.498± 3.812pg/ml と有意に高値(p=0.028)を示した。免疫組織学的検討における KGF 発現では血清 KGF 値と正の相関(p=0.0198)を示した。また同様に免疫組織学的 K-sam 発現は血清 KGF 値と正の相関(p=0.0177)を示した。血清 KGF 値は、肉眼型 4,5 型胃癌においてその進行度によらず、有意に高値を示したことから、増殖や浸潤機転を顕著に示すような予後不良な癌腫にて高値を示す傾向にある。血清 KGF 値は免疫組織学的 KGF、K-sam の発現と正の相関性が示されたことから、血清 KGF 値の測定から、スキルス胃癌などの予後不良なびまん性浸潤型胃癌を進行癌となる前段階で拾い上げられる可能性が示唆された。